2022 年度 J-STAGE ジャーナルコンサルティング

ミニセミナー 報告書（第 1 回～第 3 回）

2023 年 2 月 27 日

国立研究開発法人科学技術振興機構
情報基盤事業部

目次

1. 開催概要 2
1.1. 趣旨 2
1.2. 開催形態・日時および参加状況 2
1.3. プログラム 2
2. 講演概要 3
1）J-STAGE 登載誌の質向上に向けた取り組みとジャーナルコンサルティング 3
2）オープンアクセスの概要 3
3）CC ライセンスの概要と設定 4
4）DOAJ の概要と収録申請 4
5）ジャーナルの評価と課題への取り組み 5
公開資料 5
3. 開催後アンケートの結果（概要） 5
巻末. 開催後アンケートの結果（詳細） 7

© 2023 Japan Science and Technology Agency
この文書はクリエイティブ・コモンズ[表示 4.0 国際]ライセンスの下に提供されています。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

1.　開催概要

1.1.　趣旨

J-STAGE 事業においては、J-STAGE システム自体の整備に加え、J-STAGE 発行機関との連携を強化し J-STAGE 登載誌の質向上を図る取り組みも進めており、その取り組みのひとつとして、2017 年度よりジャーナルコンサルティングを実施してきた。2019 年度からは、このジャーナルコンサルティングから派生して、J-STAGE の推進するオープンアクセスならびにジャーナルの質向上に関する基礎的な事項の周知を目的とし、ジャーナルコンサルティングに参加していない J-STAGE 発行機関を対象としたミニセミナーを開催している。

なお、2022 年度は第 1 回から第 3 回についてはこれまでと同様の内容で実施したが、第 4 回についてはこれまでと内容を一新し、オープンアクセス誌とするための実践的な手順に焦点をあてたセミナーとして実施した。そのため、この報告書では第 1 回～第 3 回ミニセミナーについてとりあげ、第 4 回ミニセミナーについてはべつに報告する。

1.2.　開催形態・日時および参加状況

開催形態 : Zoom ミーティングによるオンラインセミナー

開催日時 :

第 1 回　2022 年 10 月 24 日（月）15 時～17 時

第 2 回　2022 年 11 月 25 日（金）13 時～15 時

第 3 回　2022 年 12 月 21 日（水）14 時～16 時

参加者数 :

第 1 回　20 名

第 2 回　25 名

第 3 回　38 名

計　　83 名

参加申込者に対し、実際にセミナーに参加したのは 約 73 %。

参加者の所属は、約 43 %が学協会 役員・編集委員、約 49 %が学協会 事務局、約 7 %が印刷会社・出版社であった。

1.3.　プログラム

1) J-STAGE 登載誌の質向上に向けた取り組みとジャーナルコンサルティング（20 分）

2）オープンアクセスの概要（30 分）

3）CC ライセンスの概要と設定（25 分）

（休憩：5 分）

4）DOAJ の概要と収録申請（25 分）

5）ジャーナルの評価と課題への取り組み（10 分）

6）全体を通しての質疑応答（5 分）

各セクションののちに質疑応答の時間を設け、Zoom のチャット機能および口頭にて質問を受け付けた。

2. 講演概要

1）J-STAGE 登載誌の質向上に向けた取り組みとジャーナルコンサルティング

ジャーナルコンサルティングとは、JST および JST が委託する海外のコンサルティング会社が、J-STAGE 登載誌の発行機関に対する個別事情を踏まえたコンサルティングを通じて、J-STAGE 登載誌の質向上のための課題解決の支援を行うものである。

例年、4 月～5 月に参加募集を行い、6 月に採択されてから翌年 3 月までの約 9 ヶ月間を実施期間としている。コンサルティングの流れとしては、まず、コンサルタントがジャーナルの現状分析を行い、つぎに、コンサルタントと発行機関のあいだで現状分析にもとづいた改善すべき課題を決定する。そののち、発行機関が実際に改善に向けた活動を進めていく。

2017 年度および 2018 年度はパイロットプロジェクトとして計 5 学会、2019 年度からは本プロジェクトとなり 5 学会に対しコンサルティングを実施した。2020 年度は、DOAJ への収載を統一目標に設定し、すでにオープンアクセスを実現しているジャーナルを参加対象として英文誌 15 誌、和文誌 5 誌に対して実施した。2021 年度は、英文誌については改善に意欲のあるジャーナルがその改善段階に応じて多様な支援を受けられるように 8 つのコースを提供するかたちで 12 誌に対して実施し、和文誌については前年度と同様に DOAJ への収載を統一目標に 8 誌に対して実施した。2022 年度は、英文誌については前年度より 2 コース増やしたうえで同様のかたちにて 16 誌に対して実施し、和文誌についてはひきつづき DOAJ への収載を統一目標に 2 誌に対して実施した。

2）オープンアクセスの概要

オープンアクセス（OA）とは、学術論文の全文にあらゆる人が無料でアクセスでき、その論文の二次利用が自由にできる状態を指す。この概念の登場は、1980 年代以降の学術雑誌の価格高騰とインターネットの普及に端を発する。

OA は、その実現方法によってグリーン OA、ゴールド OA、ダイヤモンド OA、ハイブリッド OA などの呼称が用いられる。グリーン OA はセルフアーカイブとも呼ばれ著者が機関リポジトリに登載することにより OA を実現するもの、ゴールド OA は論文著者の支払う論文掲載料（APC）のある OA 誌により OA を実現するもの、ダイヤモンド OA とは APC のない OA 誌により OA を実現するものである。

論文を OA で公開するメリットとしては、二次利用が広く合法的になされることに加え、

論文の閲覧数や被引用数、ひいては投稿数の増加などが挙げられる。また、世界各国において政策レベルでの OA に関する方針が策定されており、日本でも、JST をはじめとする研究助成機関が研究成果の OA に関する方針を発表している。とくに、2022 年 8 月には米国大統領府科学技術政策局が公的助成研究成果は即時 OA で公開する方針を発表し、また、JST は 2022 年 4 月にオープンサイエンス基本方針を改訂し研究成果論文は OA 化することを原則とする方針を打ち出した。

J-STAGE においては、利用規約において利用申請条件のひとつとして「オープンアクセスの実現に積極的に取り組めること」と明記している。しかしながら、J-STAGE 登載誌の 81 %は二次利用の範囲・条件が明示されていないフリーアクセス誌であり、のちに述べるクリエイティブ・コモンズライセンス（CC ライセンス）を付与している OA 誌は、増加傾向にはあるものの依然 6 %にすぎない。

3）CC ライセンスの概要と設定

CC ライセンスとは、著作物の二次利用条件を表示するためのツールである。CC ライセンスを著作物に付与することによって、著作権者は著作権を保持したまま著作物を自由に流通させることができ、その利用者はライセンス条件の範囲内で再配布や改変などができる。CC ライセンスは、学術雑誌の OA 化におけるライセンスとして世界的なデファクトスタンダードとなっている。

CC ライセンスは 6 種類あり、それぞれ二次利用を許可する条件や範囲が異なる。CC ライセンスの導入にあたっては、ジャーナルの事情に合ったライセンスを採用するための検討が求められる。また、導入決定後は、ジャーナルの投稿規程にその旨を明記することで論文著者への周知を行う必要がある。CC ライセンスを論文に付与する際、J-STAGE の書誌画面と本文 PDF の両方に CC ライセンスを表示することで、ライセンス情報を正しく流通させることが可能になる。

CC ライセンスを付与できるのは著作権者であり、論文著者が学会へ著作権を譲渡している場合は、学会が CC ライセンスを決定することができる。ただし、日本の著作権法においては現著作者が著作者人格権をもつため、改変を許可するライセンスを付与する場合は論文著者が著作者人格権の不行使を宣言するよう定める必要がある。

4）DOAJ の概要と収録申請

DOAJ とは、国際的に認知された基準を満たす高品質の OA 誌を収録するオンラインディレクトリサービスである。近年、論文掲載料目当ての粗悪学術誌、いわゆるハゲタカジャーナルが問題となるなか、DOAJ はハゲタカジャーナルではない OA 誌であることを証明するホワイトリストとして国内外で活用されている。2022 年 9 月末の時点で、DOAJ には言語や地域、分野を問わず約 18,300 誌の OA 誌が収載されているが、出版国が日本のものはわずか 78 誌、また、そのうち J-STAGE 登載誌は 50 誌にとどまっている。

DOAJ のウェブサイトでは、キーワードの他にカテゴリや CC ライセンスの種類などによってジャーナルや記事を検索できる。また、各ジャーナルのページでは論文掲載料や投稿規程へのリンクなどの情報を参照することができる。

DOAJ へ収載されるには 7 つの基本要件への準拠が求められるほか、「学術出版における透明性とベストプラクティスの原則」も満たす必要がある。DOAJ への収載申請はオンラインフォームから行い、最長 6 ヶ月の審査期間ののち収載可否が決定される。

5）ジャーナルの評価と課題への取り組み

ジャーナルコンサルティングでは、多くの投稿を呼び込み、質の高い論文を定期的に発行できる体制の整っているジャーナルを「質の高いジャーナル」と定義している。ジャーナルの発展には複数の要素を総合的に考えていく必要があるが、多くの場合、Aims & Scope、投稿規程、編集委員会の構成、ジャーナルウェブサイトなどといった、ジャーナル運営の「基盤」にあたる情報の整備が特に重要な要素となる。

「基盤」は、投稿者や読者が「このジャーナルはどんなジャーナルなのか」を知るうえで必要な情報である。この情報が不足していたりアクセスしにくかったりすると興味や信頼を抱いてくれる人が増えず、閲覧数や投稿数が伸び悩み、余計に興味や信頼が失われていくという負のスパイラルに陥ってしまう。逆に基盤がしっかりしていると、信頼・信用できるジャーナルであるという評価を得やすく、閲覧数や投稿数を伸ばしていく正のスパイラルを生み出せる可能性が高まる。ジャーナルの改善を行う際にはまずジャーナルの現状を分析する必要があるが、そこで改善すべき事項が複数出てきた場合も、ジャーナル運営の正のスパイラルを起こす第一歩として、まず「基盤」の改善から優先して着手すべきである。

公開資料

第 1 回～第 3 回ミニセミナーの発表資料、質疑応答の抜粋（第 1 回～第 4 回）は、下記 URL から公開されている。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/InformationForSocieties/TAB5/-char/ja

3.　開催後アンケートの結果（概要）

各回の開催後、参加申込者宛にアンケート回答の依頼メールを送信した。3 回を通しての回答数の合計は 41 で、回収率は 49.4 %であった。

各セクションの講演についてたずねた設問では、いずれのセクションにおいても「大変参考になった」および「参考になった」との回答がほぼ 100 %となった。また、本セミナーの受講を通じて取り組んでみたいと思ったテーマをたずねた設問（複数選択可）では、全体の

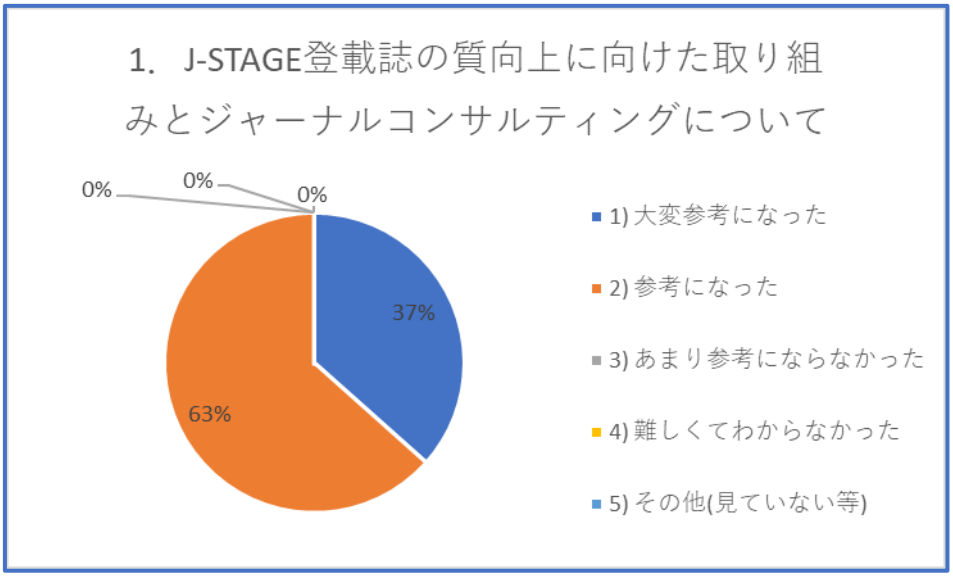
半数近くが「オープンアクセス化」、「CC ライセンスの導入」、「投稿規程等の標準ドキュメントの整備」を挙げた。

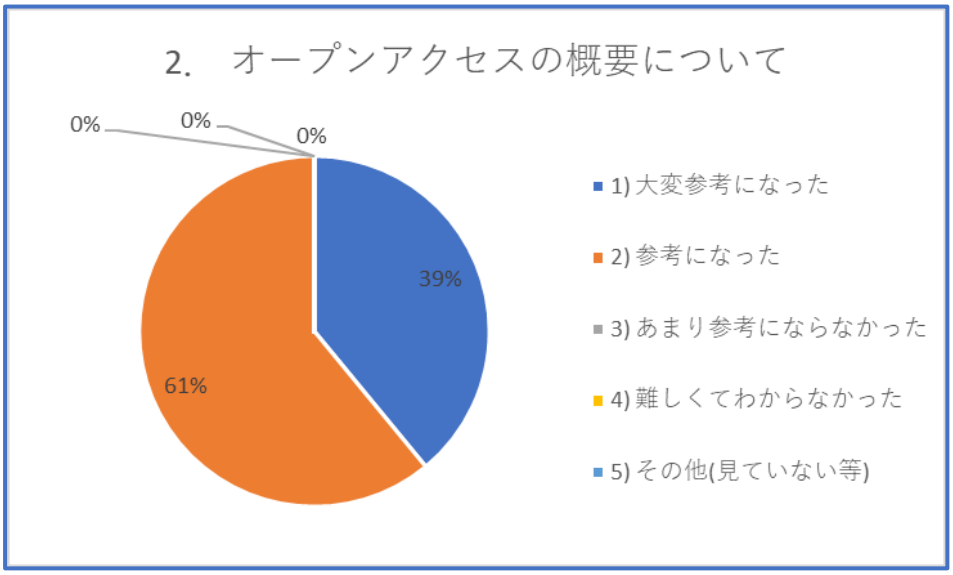
自由記述では、「OA 化にむけて動いてはいるが、それに必要なことがはっきり示された。」「全体的によくまとめられていてたいへん参考になった。」などのコメントがあった。

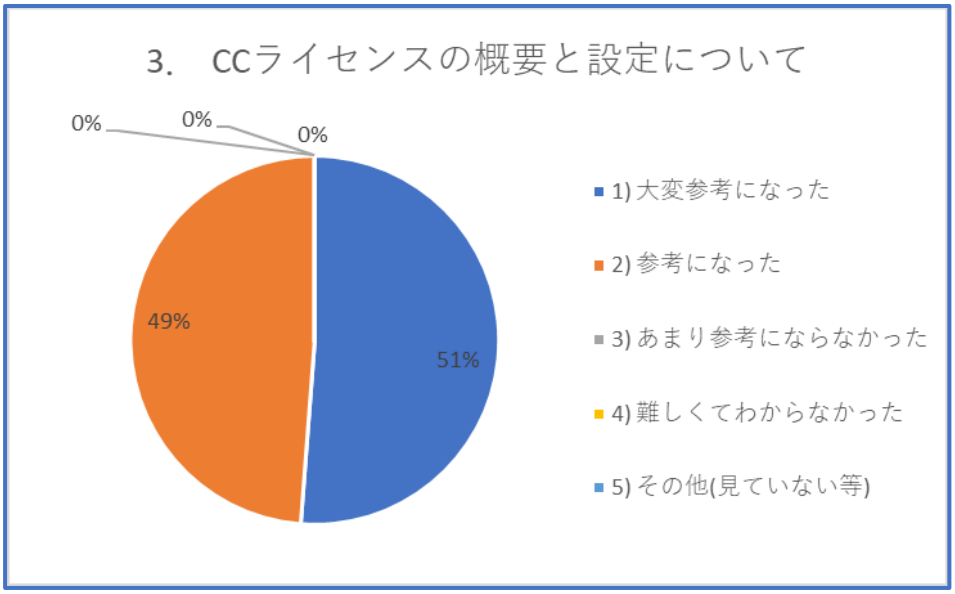
巻末. 開催後アンケートの結果（詳細）

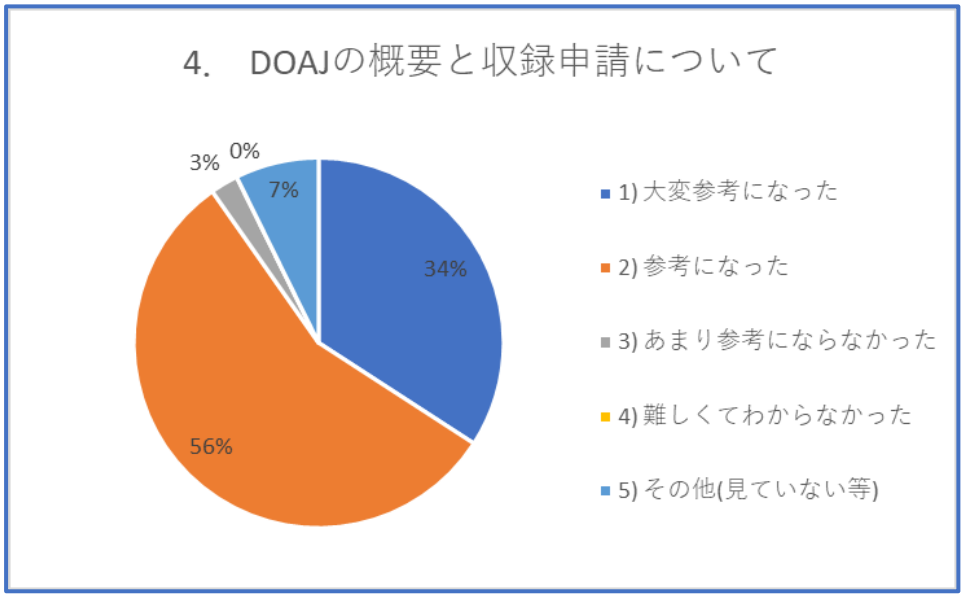
回答数：41
所属(複数選択可)：
学協会(役員) 14、学協会(編集委員) 14、学協会(事務局) 19、印刷会社・出版社 1、無回答 2

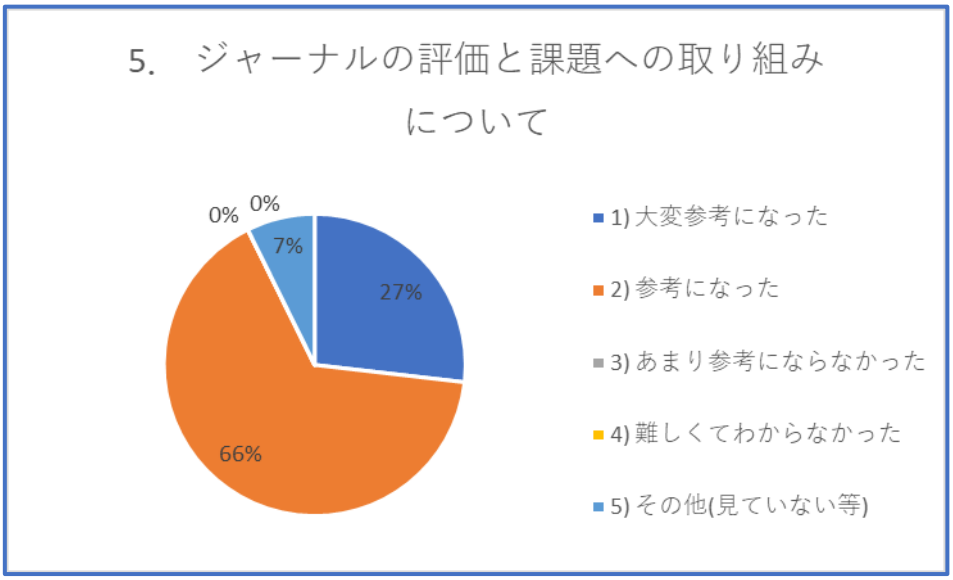
① 本セミナーについて



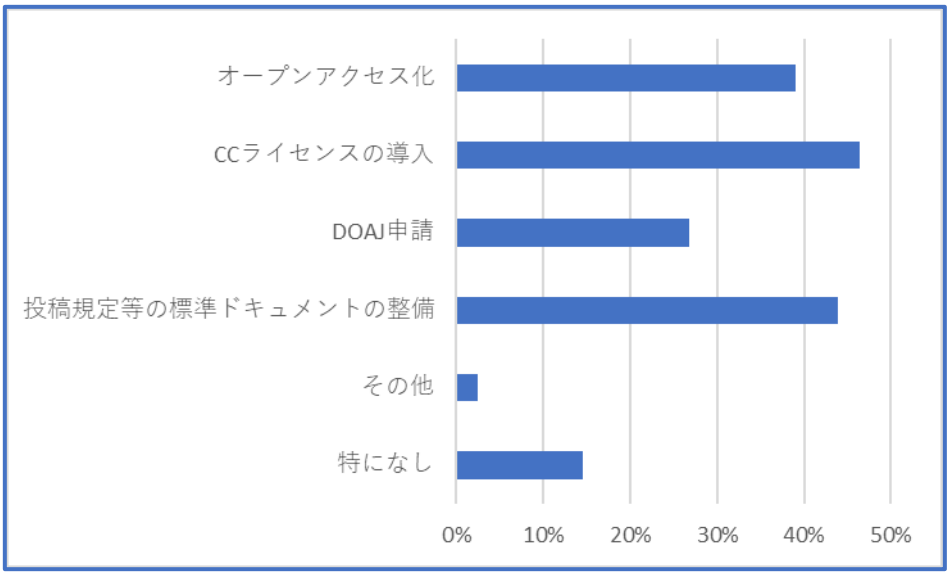



3.　CCライセンスの概要と設定について
0%
0%
0%
49%
51%
1) 大変参考になった
2) 参考になった
3) あまり参考にならなかった
4) 難しくてわからなかった
5) その他(見ていない等)


4.　DOAJの概要と収録申請について
3%
0%
7%
34%
56%
1) 大変参考になった
2) 参考になった
3) あまり参考にならなかった
4) 難しくてわからなかった
5) その他(見ていない等)



② 本セミナーを受講されて、取り組んでみたいと思われたテーマは何ですか？（複数選択可）



③ 本セミナーで取り上げなかったことで、ジャーナルの質向上やオープンアクセスなどについて分からないこと、知りたいことなどがありましたらお書きください。

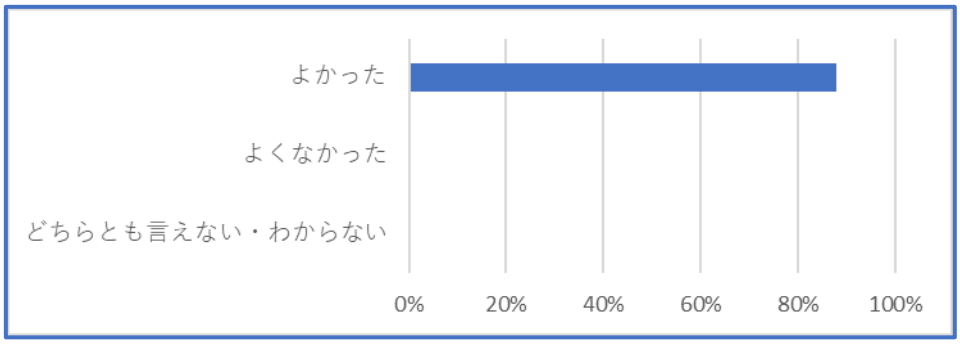
- 和文誌から英文誌に転換するためのノウハウ。
- ジャーナルでの論文におけるデータの掲載方法、デジタルアーカイブにおける CC ライセンス。

・ JIF など主要なジャーナルメトリクスを取得するための方法。

④ ジャーナルの出版に当たって、J-STAGE に支援してほしいことがありましたら具体的にお書きください。

・ 全文 XML 作成ツールのくわしい使い方。

⑤ 本セミナーはウェビナーツール（Zoom）で開催しましたが、開催方式について当てはまるものをご選択ください。



（ウェビナー形式に関する自由記述）

・ 限られた時間で多くの情報が得られる。

・ オンライン開催のため、移動時間や外出申請の手間がなく気軽に参加できるのがよかった。

以上